

◇神奈川県内大学図書館相互協力協議会の 神奈川県図書館協会との統合による発展的解消について

本協議会は、相互利用開始から32年、設立準備期間を含め35年間活動して参りましたが、平成27年度から神奈川県図書館協会と統合し、発展的に解消することとなりました。4月からは、同協会内に大学図書館協力委員会が設置され、相互協力活動等が引き継がれます。

本協議会は解消となりますが、今後は、同協会加盟の公共図書館、専門図書館との館種を超えた、幅広い相互協力活動の展開への可能性も高まり、一層の発展が期待されます。

◇平成 26 年度臨時総会・実務担当者会報告

平成26年度臨時総会及び神奈川県図書館協会大学図書館委員会との共催による平成26年度の実務担当者会が、12月9日(火)午後1時30分から神奈川大学1号館会議室において開催されました。

実務担当者会では、神奈川県図書館協会事務局書記で神奈川県立図書館企画サービス部企画協力課課長の小林利幸氏より「神奈川県図書館協会の活動と館種を超えた連携について」と題してご講演いただきました。

小林氏にご寄稿いただいた講演内容と議事概要を以下に掲載いたします。

また、臨時総会と実務担当者会の間に、神奈川大学図書館の見学会が行われました。

=講演=

「神奈川県図書館協会の活動と館種を超えた連携について」

神奈川県図書館協会 事務局 書記 小林 利幸

1. 神奈川県の図書館協会について

神奈川県図書館協会(以下「神図協」という。)は、現在、県内の公共75館、大学36館、専門14館の計125図書館と個人会員が加盟し、図書館についての調査研究や広報活動、図書館員の研修など、図書館の発展と利用者サービス向上のため、多彩な活動を展開している。

そもそも、県域における図書館協会等の団体は、「図書館の設置及び運営上の望ましい基準(平成24年12月19日文部科学省告示第172号)」で「当該都道府県内の図書館の相互協力の促進

等に資するため、当該都道府県内の図書館で構成する団体等を活用して、図書館間の連絡調整の推進に努めるものとする。」で述べられているとおり、全ての都道府県に存在している。今回、神奈川県内大学図書館相互協力協議会が、その活動を神図協に統合することとなった。本日は、その神図協のこれまでの活動の一部と、統合後に期待することについて述べる。

2. 神図協の歴史

神図協の設立は、1928(昭和3)年3月にさか

のぼる。「本協會ハ縣内ニ於ケル圖書館ノ連絡提携ヲ圖リ圖書館事業ノ發達改良ヲ促進スルヲ以テ目的トス。本會ハ神奈川県圖書館協會ト稱シ事務所ヲ神奈川県廳社會教育課内ニ置ク。」ⁱ⁾とあるように、未だ県立図書館がなかった当時の様子を伝えている。設立年は、山口県、奈良県、山形県に次いで4番目に古く、5年後の1933(昭和8)年には『神奈川県図書館協会報』(当時は『神奈川県図書館月報』)の刊行を始めた。しかし、第二次世界大戦の激化により1942(昭和17)年「神奈川県図書館月報」は休刊、神図協は神奈川県社会教育協会に統合された。

戦後、1947(昭和22)年に神図協は再発足し、1950(昭和25)年、機関誌は『神奈川県図書館報』として、復刊した。1963(昭和38)年には、『神奈川の図書館』刊行開始、1972(昭和47)年、県内大学図書館協議会が神図協に加入し、大学図書館運営委員会(現在の大学図書館委員会)が発足している。2001(平成13)年、神奈川県図書館協会Webページ開設、翌年、協会Webページ内での「県内公共図書館OPAC一括検索」開始などの、活動を経て現在に至っている。なお、都道府県協会に大学が加盟している都道府県は、神奈川県も含め15都県であることは、神図協の特色の一つでもある。

3. 神図協の活動概要

神図協に加盟している図書館の設置母体は、県市町村、国立大学、公立大学、私立大学、公益財団法人、社会福祉法人などさまざま、図書館の館種も、公立図書館、大学図書館、文学館、専門図書館、博物館、公文書館、議会図書室、資料館など多岐にわたっている。

協会の活動に必要な事業費は、加盟館の分担金、個人会員の会費、日本図書館協会からの地方活動費などで賄っている。事業は、協会会則第3条で規定に沿う形で活動を行っている。

- ・ 図書館に関する調査研究…企画委員会、郷土・出版委員会、大学図書館委員会
- ・ 図書館活動の普及…Webページでの広報、図書館総合展への参加
- ・ 読書推進運動…県子ども読書活動推進フォーラムの共催
- ・ 図書館職員の研修…研修委員会
- ・ 機関紙、その他の印刷物の刊行…広報委員会
- ・ 図書館相互の連絡協調…理事会、企画委員会等の活動、Webページでの情報共有

4. 神図協の先進的な活動

神図協の活動の中で、特筆するものとして2001(平成13)年、神奈川県図書館協会Webページ立ち上げの翌年、協会Webページ内での「県内公共図書館OPAC一括検索」システムを開発し、サービスを提供し始めたことがある。その当時は、ようやくWeb-OPACが普及し始めた頃で、県内では、県も含め39自治体のうち15自治体と4割弱に留まっていた。そのような状況ではあったが、更なるサービスを提供したいとの提案があり、当時の神図協広報委員会を中心に全国的にも先進的なWeb-OPACの横断検索システムを開発した。



この横断検索は、Web-OPACをこの後から立ち上げた秦野市、座間市、三浦市、大磯町を加えて、19自治体に発展した。そして、2005(平成17)年、県立図書館が運営する神奈川県図書館情報ネットワーク・システム(KL-NET)ⁱⁱ⁾で、県内全ての市町村、5大学、2専門図書館を対象とする横断検索システムが稼働したのを契機に、その役割を終えることとなった。

5. 神図協の図書館振興について

神図協は、図書館に関する調査研究などとともに、県下の図書館振興に多大な貢献を果たしてきた。そのいくつかを紹介すると、まず戦後、神図協が再建されてすぐ、占領軍に接収されていた横浜市図書館の返還を請願し、それが実現ⁱⁱⁱ⁾したことである。翌年、県立図書館の無かった神奈川県に「県立中央図書館」早期設置の建議を知事に対し決議した。これは、1951(昭和26)年、県立図書館設置について県知事、県教育委員会及び県議会への陳情を経て、1954年(昭和29)年、県立図書館の建設、開館^{iv)}へとつながることとなった。

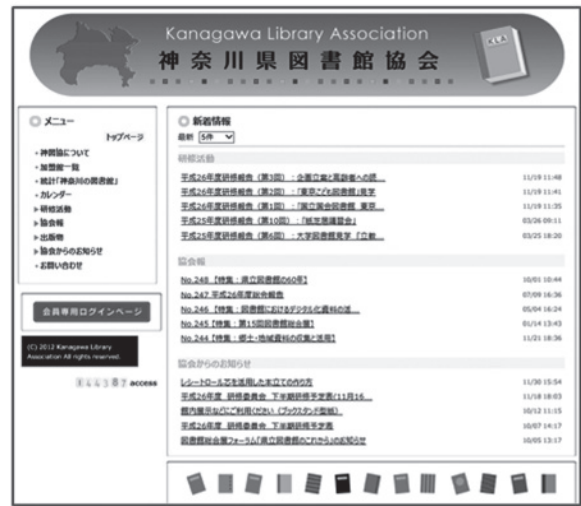
近年では、2012(平成24)年11月、県が緊

急財政対策^{v)}の一環として「神奈川県立図書館・県立川崎図書館の機能集約・廃止等」を検討することについて、神図協は翌年3月、「県立の図書館機能の見直し案に対する要望書」で、直接貸出サービスの継続、県立の図書館のあり方に県民、職員及び図書館関係者の意見を十分に反映させる等の要望を県知事、県教育長へ提出した。これは、のちに直接貸出サービスの継続、県立図書館は、建物の建替えや改修、県立川崎図書館は移転という方向転換へとつながった。

6. 神図協の館種を越えた連携のこれから

神図協の創設以来、図書館に関する調査研究、職員への研修を通じて、県内の図書館振興に多大な貢献をしてきた。そこには、協会を通じて活動する図書館職員の交流と連携があった。図書館の館種を問わず、図書館職員に求められる職務や役割が大きく変わってきている現在であるからこそ、協会活動を通じての人とのつながりがますます重要となってくると考えられる。しかしながら、図書館で働く人の雇用形態が多様化する現状では、委員会などを通じての活動は難しくなっている。そこで、これまでの研修講座や、見学研修での活動の他に、時と場所を選ばない協会としての活動、事業を活発化させることが重要と考えられる。

2012（平成24）年、神図協 Web サイトが国立情報学研究所 NII の「NetCommons」（コンテンツ・マネージメント・システム）^{vi)}へシステム移行したことで、外部配信向けのポータルサイトの機能（パブリックスペース）、グループの情報共有のための機能（グループスペース・グループウェア）を使って各委員会等の活動を



外部から発信することができるようになった。2015年度当初に予定されている神奈川県内大学図書館相互協力協議会との統合により、あらたなコンテンツの発信ができることは、神図協全体の発信力を、より高められる可能性がある。まずは、そこからが出発点であると考えられる。

【参考文献】

- i) 神奈川県図書館協会会則第1～2条『神奈川県図書館協会報第1号』
- ii) 神奈川県図書館情報ネットワーク・システム（KL-NET）
<http://www.klnet.pref.kanagawa.jp/common/network.htm>
- iii) 『神奈川県図書館沿革略譜稿1872～1978』神奈川県図書館協会1978
- iv) 『神奈川県図書館協会の歩み』神奈川県図書館協会2005
- v) 神奈川県緊急財政対策について
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f417452/>
- vi) 国立情報学研究所 NII 「NetCommons」
<http://www.netcommons.org/>

◆平成26年度臨時総会議事報告

当日の出席は27館30名、委任状提出16校で、会則第9条第3項に則り総会は成立しました。議事は次のとおり進められました。

- 1 神奈川県内大学図書館相互協力協議会の今後のあり方について 【承認】
平成27年4月1日より、神奈川県内大学図書館相互協力協議会は、神奈川県図書館協会大学図書館委員会と統合し、神奈川県図書館協会の内部組織とすることが承認された。
- 2 神奈川県内大学図書館相互協力協議会会則の廃止について 【承認】
会則は、次の2点を盛り込み、平成27年3月31日をもって廃止することが承認された。
・会則第2条の目的及び第4条の事業は、神奈川県図書館協会に引き継ぐ。
・平成26年度の残金は、平成26年12月9日現在の協議会加盟館の平成27年度神奈川県図書館協会会費に充て、余剰金は、神奈川県図書館協会に移譲する。
- 3 その他
今後の活動及び決算に関する報告は、3月に発行予定の会報によって行う事とした。

◇神奈川県内大学図書館相互協力協議会のあゆみ

本協議会は平成 27 年度から神奈川県図書館協会と統合します。以下に、これまでのあゆみをふりかえります。

昭和54 (1979) 年 12 月	横浜 5 大学連合学会 (社会科学系の教員を中心とした学会) から要望書「神奈川県における大学図書館間の相互利用体制の整備について」が (各々の大学図書館長宛に) 提出される (横浜 5 大学: 横浜国立大、横浜市立大、神奈川大、関東学院大、横浜商科大)
昭和55 (1980) 年 3 月	5 大学図書館長会議発足
6 月	「神奈川県内(横浜 5)大学図書館相互利用制度」開始 同時に「神奈川県内(横浜 5)大学図書館相互利用実施要項」及び「同細則」が制定される
昭和57 (1982) 年	「神奈川県内大学図書館相互利用実施要項」制定 加盟館は 28 館に増加し本協議会発足
昭和58 (1983) 年 4 月	相互利用開始 (対象は大学院生以上の研究者)「相互利用マニュアル 1983」刊行 加盟館 30 館
昭和61 (1986) 年 5 月	会報第 1 号発行
11 月	「神奈川県内大学図書館 統計資料総合目録(稿)」刊行
平成元 (1989) 年	「神奈川県内大学図書館 年鑑類総合目録(稿)」刊行
平成 4 (1992) 年 5 月	現物貸借制度運用開始
平成 7 (1995) 年	「神奈川県大学図書館 市民利用マニュアル」刊行
平成 8 (1996) 年	「神奈川県大学図書館所蔵 新聞目録」刊行
平成21 (2009) 年	共通閲覧証利用対象を「研究者」から「研究者及び学生」へ拡大
平成26 (2014) 年 12 月	神奈川県図書館協会との統合を決定 加盟館43館
平成27 (2015) 年 4 月	神奈川県図書館協会との統合により発展的解消

実務担当者会開催記録

年 度	会 場	テーマ・演題
昭和 59 年度 (昭和59年12月14日)	横浜市立大学	相互協力の現況報告
昭和 60 年度 (昭和60年11月 8 日)	横浜市立大学	情報交換会
昭和 61 年度 (研修会) (昭和61年11月25日)	神奈川大学図書館	講演:「大学図書館相互協力について」
昭和 61 年度 (昭和61年12月17日)	横浜国立大学附属図書館	相互利用の実績と現況の諸問題
昭和 62 年度 研修会 (昭和62年11月13日)	横浜国立大学附属図書館	講演:「学術情報センターシステムと大学図書館相互協力」
昭和 62 年度 (昭和62年12月10日)	横浜国立大学附属図書館	相互利用の情報交換
昭和 63 年度 (昭和63年10月20日)	横浜国立大学附属図書館 中央図書館	他大学利用者への対応について、文献複写と著作権の取扱いについて、大学図書館の一般市民への公開について、相互貸借について
昭和 63 年度 (研修会) (昭和63年11月29日)	横浜国立大学附属図書館 中央図書館	講演:「国公立大学図書館間協力の現状と展望」
平成 1 年度 (平成 1 年 7 月 4 日)	東海大学湘南校舎	相互貸借について、文献複写について、学外者へのサービスについて
平成 1 年度 (研修会) (平成 1 年11月24日)	東海大学湘南校舎	講演:「大学図書館の公開と図書館協力」
平成 2 年度 (平成 2 年 9 月28日)	東海大学湘南校舎	相互協力の活性化を目指して
平成 2 年度 (研修会) (平成 2 年11月27日)	東海大学湘南校舎	講演:「県内図書館のネットワークの現状と課題」
平成 3 年度 (平成 3 年10月 8 日)	東海大学湘南校舎	相互協力について (パネルディスカッション)

年 度	会 場	テーマ・演題
平成3年度(研修会) (平成3年12月10日)	東海大学湘南校舎	講演:「学術情報センター ILL システムについて」
平成4年度 第1回 (平成4年10月22日)	神奈川大学	講演: 現物相互貸借制度を始めるにあたって
平成4年度 第2回 (平成4年12月4日)	神奈川大学	講演:「相模女子大学の新しい図書館の建設経過と今後の課題について」
平成5年度 第1回 (平成5年6月25日)	神奈川大学	講演:「電子出版と参考業務について」
平成5年度 第2回 (平成5年11月26日)	神奈川大学	神奈川県内大学図書館相互協力協議会の今後の課題(パネルディスカッション)
平成6年度 第1回 (平成6年7月15日)	横浜市立大学	公共図書館との相互協力について、特に KL-NET について
平成6年度 第2回 (平成6年11月29日)	横浜市立大学	新聞・雑誌の分担保存について
平成7年度 第1回 (平成7年7月28日)	横浜市立大学	講演:「NACSIS-ILL の現状と将来展望」「NACSIS-ILL の実際」
平成7年度 第2回 (平成7年11月17日)	横浜市立大学	講演:「素人から見たインターネット」「大学図書館におけるインターネット活用事例」
平成8年度 第1回 (平成8年7月29日)	慶應義塾大学日吉メディアセンター	講演:「CD-ROM の管理と運用」「CD-ROM 導入調査概要報告」
平成8年度 第2回 (平成8年11月15日)	慶應義塾大学日吉メディアセンター	講演:「図書館に於ける資料保存の枠組み」「資料保存対策の組織化の試み」
平成9年度 第1回 (平成9年7月29日)	慶應義塾大学日吉メディアセンター	講演:「生涯学習と大学図書館」 報告:「図書館の公開に関する調査結果報告」
平成9年度 第2回 (平成9年11月7日)	慶應義塾大学日吉メディアセンター	講演:「図書館システムの高度化」「大学図書館における電子ジャーナル利用の問題点と書店の役割」
平成10年度 第1回 (平成10年7月24日)	フェリス女学院大学緑園キャンパス	講演:「海外への協力依頼—BLDSC への依頼方法」「海外 ILL 事例研究」
平成10年度 第2回 (平成10年11月13日)	フェリス女学院大学緑園キャンパス	講演:「Web サイトで情報と遊ぶ—東京農工大学附属図書館 WWW の世界—」「慶應義塾大学日吉メディアセンターにおける情報リテラシー教育」
平成11年度 第1回 (平成11年7月16日)	フェリス女学院大学緑園キャンパス	講演:「横浜型コンソーシアムの可能性」「インターネット時代の図書館—効率的な学術情報をめざして—」
平成11年度 第2回 (平成11年12月17日)	フェリス女学院大学緑園キャンパス	講演:「大学図書館経営におけるパフォーマンス指標」「映画で見る図書館・図書館員のイメージ」
平成12年度 第1回 (平成12年7月19日)	専修大学生田120年記念館	講演:「現場から考えた21世紀的電子図書館」「ネットワークで情報提供—CD-ROM サーバを中心に—」
平成12年度 第2回 (平成12年11月8日)	専修大学生田120年記念館	講演:「神奈川県内大学図書館相互協力協議会創設の頃とこれから」事例報告:「海外 ILL 依頼事例報告・IFLA Voucher について」「海外からの ILL に応じる—受け付けから料金の徴収まで—」
平成13年度 第1回 (平成13年7月19日)	専修大学生田120年記念館	講演:「国際基督教大学図書館における新館開館後のサービス—新しい展望と課題—」「横断検索と図書館コンソーシアム—山の手コンソーシアムの場合(個人的見解)—」
平成13年度 第2回 (平成13年11月8日)	専修大学生田120年記念館	講演:「図書館業務のアウトソーシング—中央大学図書館の具体例—」「図書館リテラシーを考える—明治大学における「図書館活用法」開設の経緯と現在—」
平成14年度 第1回 (平成14年7月26日)	東海大学湘南校舎	講演:「早稲田大学中央図書館の海外 ILL 事情～現状と課題～」「OCLC の概要と Connexion サービス」
平成14年度 第2回 (平成14年11月14日)	東海大学湘南校舎	講演:「TAC 図書館部会の相互協力事業の活動と評価」「国立大学図書館における電子ジャーナル導入とコンソーシアム活動について」
平成15年度 第1回 (平成15年7月25日)	東海大学湘南校舎	講演:「大学図書館における著作権」「出版者と図書館の利害は反するか」
平成15年度 第2回 (平成15年12月4日)	武蔵工業大学横浜キャンパス	講演:「電子ペーパー技術の現状と今後への期待」
平成16年度 第1回 (平成16年9月2日)	横浜国立大学附属図書館中央図書館	講演:「KL-NET の現状と展望」

年 度	会 場	テーマ・演題
平成 16 年度 第 2 回 (平成17年 2月14日)	横浜国立大学附属図書館中央図書館	講演：「学術機関リポジトリについて」
平成 17 年度 (平成17年 9月29日)	横浜国立大学附属図書館中央図書館	大学における個人情報の取扱について 講演：「大学図書館が心がけるべき個人情報保護」
平成 18 年度 (平成18年11月21日)	慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス	大学図書館の地域開放・地域連携 講演：「地域に活かす大学の図書館」
平成 19 年度 (平成19年12月 7日)	慶應義塾大学湘南藤沢メディアセンター	これからのレファレンスサービスを模索する 講演：「サービスレベルの維持・向上をどのように図るのかー公共図書館の事例を参考に」
平成 20 年度 (平成20年12月11日)	慶應義塾大学理工学メディアセンター	現場に生かすフォーカスグループインタビュー 講演：「企業のなかでのグループインタビュー活用事例」
平成 21 年度 (平成21年12月 9日)	慶應義塾大学理工学キャンパス	実務者のための問題解決法（グループディスカッション）
平成 22 年度 (平成22年12月 1日)	横浜国立大学附属図書館中央図書館	実務者のための問題解決法（グループディスカッション）
平成 23 年度 (平成23年11月25日)	横浜国立大学附属図書館中央図書館	実務者のための問題解決法（グループディスカッション）
平成 24 年度 (平成24年11月13日)	神奈川大学図書館	これからのレファレンス・サービスのあり方を考える（講演・ディスカッション）
平成 25 年度 (平成25年10月 4日)	防衛大学校	講演：「大学へのビブリオバトル導入とその効果」
平成 26 年度 (平成26年12月 9日)	神奈川大学	講演：「神奈川県図書館協会の活動と館種を超えた連携について」

(会場名等は、開催当時の名称・記載のままとしています。)

◇事務局報告

【平成 26 年度決算】

<収入の部>

1 会費	0 円
2 その他（銀行利息）	96 円
前年度繰越金	604,778 円
	合計 604,874 円

<支出の部>

1 会議費	28,087 円
2 事務費	30,768 円
3 印刷・製本費	88,560 円
4 研究活動費	10,000 円
5 移行特別経費	447,459 円

合計 604,874 円

平成 27 年 3 月 26 日東京工業大学附属図書館すずかけ台分館、関東学院大学図書館により会計監査を受け、適正に行われていることが認められました。

【その他報告】

◎臨時総会後の活動について

神奈川県図書館協会事務局（神奈川県立図書館企画協力課内）とホームページ記事の引継ぎ、本協議会が負担する本協議会加盟校の神奈川県図書館協会平成 27 年度会費に関する確認等を行いました。

◎神奈川県図書館協会の動き

神奈川県図書館協会では、平成 27 年 1 月 21 日、2 月 13 日に開催の平成 26 年度第 3 回、第 4 回企画委員会を経て、平成 27 年 3 月 18 日開催第 5 回理事会において本協議会との統合及び統合に関する諸事項について承認され、総会に付議されることとなりました。

◎ホームページ及びメーリングリストについて

本協議会のホームページに記載の主な記事は、神奈川県図書館協会ホームページに引き継がれる予定です。平成 26 年度のレンタルサーバ契約が 6 月に終了しますので、5 月末日までに引き継ぎを完了する予定で作業を進めております。